

## 平成 28 年度 大学院看護学研究科 公開授業開催報告

公開授業の目的:直接的には、当大学の中期計画中期目標の、大学院在学生の教育内容の充実、修了生への支援、加えて、福岡県下の看護職者のネットワークの形成、看護教育や臨床看護の質の向上に寄与する。

場所:リファレンス博多東ビル7階会議室 C

参加者 19 名

授業のテーマ:グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)の理論と実際

講師:慶應義塾大学健康マネジメント学研究科 教授 戈木クレイグヒル滋子先生  
(専門分野:小児看護学)

戈木クレイグヒル滋子博士のご略歴

日本赤十字看護大学で学士、修士、カリフォルニア大学サンフランシスコ校で故ストラウス博士とコービン博士の直弟子として、グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ばれ、博士号を取得。帰国後は大学で教鞭をとる傍ら精力的に研究、図書の出版、公開セミナーの形でグラウンデッド・セオリー・アプローチの普及と後進の育成にあたっていらっしゃいます。研究業績も多く、日本小児がん看護学会、日本看護化学学会で研究奨励賞を受賞。著書は、闘いの軌跡:小児がんによる子どもの喪失と母親の成長、実践グラウンデッド・セオリー・アプローチ:現象をとらえる、質的研究法セミナー:グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ第 2 版、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集方法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ:分析ワークブック第 2 版、質的心理学講座第 2 巻:人生と病の語り(共著)など多数。

去る、9月25日、博多で大学院看護学研究科の公開授業が開催されました。臨床と教育機関に所属する看護職者、在学生、修了生 19 名でした。



講師は、一昨年度、昨年度に引き続き、戈木先生にはるばる東京からお越しいただき、GTAの理論的な基礎と、具体的な方法について教えていただきました。修士明快な語り口で、GTAの歴史と理論的な基盤、他の研究方法の違いと共通点を

プレゼンテーションされました。具体的な分析のプロセスは新刊のGTAに紹介されている分析結果を示しながら、わかりやすく解説していただき、理解しやすい内容で、あっという間の90分でした。

終了後のアンケートは、配布数 19 で、回収数 12(回収率 63%)でした。アンケートの回

答者は、教員 6 名、臨床看護師（看護管理者がほとんど） 6 名と、昨年度よりも臨床からの参加が多いのが特徴でした。

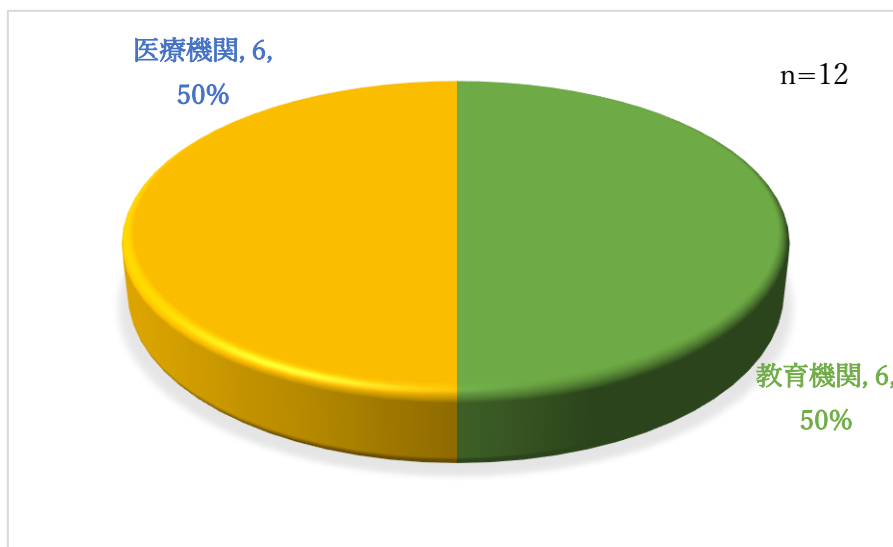


図 1. 参加者の所属機関

参加者の日頃の立場は教員、看護管理者、スタッフ看護師の順でした。

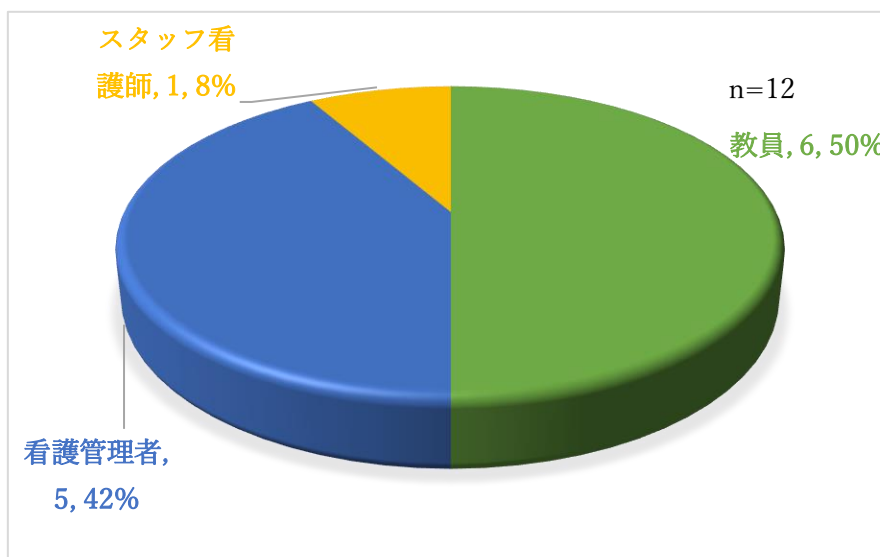


図 2. 参加者の日頃の立場

講義への満足度は、全くそう思うが50%、そう思うが25%、ややそう思うが25%でした。

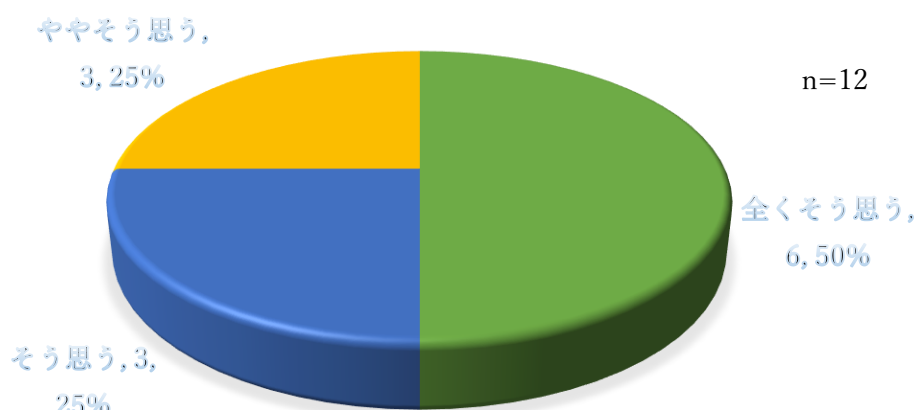


図3. 講義への満足度

仕事への講義内容の活用可能性は、全くそう思うが37%、そう思うが27%、ややそう思うが1.9%でした。

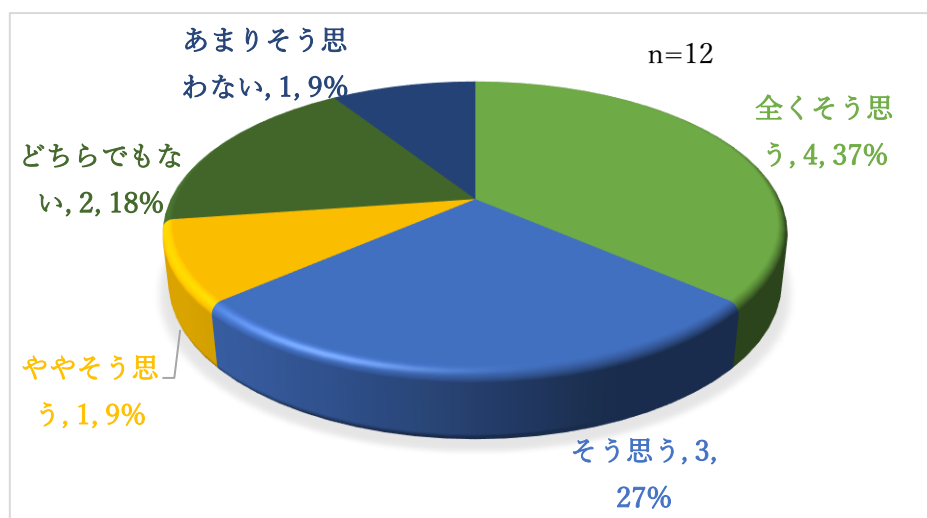


図4. 仕事への講義内容の活用可能性

今回、回答した番号を選択した理由について、自由記述を求めていたため、GTAの復習を兼ねて、分析をGTAの手法で行ってみました。その結果は、別資料のPDFに示す通りです。GTAに少しでも興味を持っていただければ幸いです。

公開授業にご参加くださった皆様、アンケートにご回答くださった皆様、本当にありがとうございました。

文責 福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻臨床看護学領域精神看護学分野  
准教授 松枝美智子